

彼は正しく藝術によつて宗教の世界を覗つた、即ち自己の作品に宗教を見出したのである。何故と言ふに、彼は殆んど謀るべからざる感覺によつて、神秘と生命とを一つに掴み、それを創作的に同じ焰の中で一致せしめたことがそれである。

x

東西古今を問はず、その時代と環境から距離れた幾多の傑出せる人物は存在もし、又現在も存在しつゝあるであらう。併し此れには、その時代と環境から除けられた者と、自ら自由に離れて居るものとの區別を生ずる。

今レムブランドは後者に屬するのであるが、その結果として容れられなかつたのは寧ろ當然である。彼の如き先見的才能を以て爲すその作品がやがては廣く了解される運命にあつたことは必然性を有する。此の事を實證するものとして、彼の藝術が十九世紀に到つて始めて認められたことを擧げなければならぬ。實に十九世紀程藝術が一般生活に穿ち入つたことは未だない事である。

嘗ては贅澤の花であり、王候や上層の人々の持囀し物であつた藝術が一般生活に穿入したと言ふことは、一つに革命のおかげである。そして繪畫に於てもレムブランドのその如き迫力に満ちた、所謂自然を超へた現實的

な作品に多くの關心を有するやうになつたのである。

ルヴェンスやテイチアンはその作品から焰と靈とを剝いだ、そしてその傑作と稱するものは、たゞ生命の美しい外形の讚美に過ぎなかつたやうである。彼等は瞥見は持つた。しかしながら眞實の幻影は持たなかつたのである。

併しレムブランドは、ダンテやセクスピアの如く、一人の「見る」人であつた。未だ嘗つて畫家に彼の如き人は一人もなかつた。そしてそれ故に彼はあらゆる畫家の上に聳えて居る。嚴然とその地位は不動である。そうして永久にそうであることを信ずる。

何事にも魂に呼びかけた、ものであることが望ましい。それは決して無意味に終ることがないからである。

了

川 三 題

田 川 惠 良

川岸の舟に荷積むや夏柳
 釣落す魚の太さや秋の川
 舟底を焼く冬川のほとりかな